



碧高祭

文化部門
9月3日(火)
体育部門
9月4日(水)
碧南高校/文化会館

～ Fly to the BLUE sky! 碧い空まで舞い上がれ碧高祭! ～

令和初の碧高祭が9月3日・4日に行われました。1日目の文化部門は吹奏楽部の演奏でスタートし、続いて演劇部、分団ステージ発表と、これまでの練習の成果を発表しました。また、クラス発表、模擬店、有志発表、文化部の展示・発表は、工夫を凝らした多彩な発表となり、碧高生を楽しませていました。2日目の体育部門では、競技だけでなく、選手への声援も一杯行方碧高生の姿があり、応援合戦では、来賓の方や保護者の方からも大きな拍手が送られていました。そして、閉会式の校歌“熱”唱では、全校生徒が肩を組み、清々しい歌声を碧い空に響かせていました。碧高祭で得た経験や想いが、人生で大切な財産になることを願っています。

校長コラム 第3回 「だいじなところには手間暇かける」 校長 伊豫田祥子

暑い夏でした。そして、各地に豪雨が襲いました。皆さんのお知り合いに被災された方はいらっしゃいませんか、また、災害復興ボランティア活動をした人はいますか?天災続くこの頃に恒例の行事が実施できるのは本当に幸運です。感謝あるのみです。

碧南高校は「碧高祭」といって、文化祭と体育大会を2日間連続で実施します。各学年8学級が縦割り4分団(青陵・赤誠・玄黄・白虎)となって競技やできばえを競います。今年度は9月3日4日に残暑の中、「文化的な」企画、「お祭りのな」企画、陸上競技、応援合戦が繰り広げられました。この準備に前の年から構想を練った人もいたとかいないとか。全体の計画や進行は生徒会執行部が行います。各分団のリーダーたちは素晴らしい計画性と実行力で団を組織し、動かしていきます。実に多くの生徒が、少なくとも夏休み後半から毎日登校して踊ったり、看板を描いたり、段ボールを切ったり張ったりと「主体的・対話的で深い学び」を自ら体験しています。

有名なのが、入場行進と応援合戦です。

どちらも分団の団結力をアピールすべく、元気っぱいの声や動き、真剣さと喜びに満ちた瞳の輝き、鍛えられた動きを見せてくれました。「すばらしい」の一語に尽きます。

こんな力がどこから湧き出すのでしょうか。代々の先輩がやってきた伝統を受け継ぐという意識でしょうか。原始から続く若さの発露でしょうか。学習はもちろん、スマホやゲームもしたい、エアコンは当たり前、そんな現代の高校生が60年以上前と大して変わらないやり方でエネルギーを燃焼させるのは、そこに大きな意味や価値を感じているからではないでしょうか。一般的な価値ではなく、自分にとっての価値です。

「わたし」として大切な物事だから、心込めて丁寧に(手間暇かけて)作り上げる。碧高生にとっての碧高祭、これは、学校祭に限りません。

校長の私にとっては生徒の成長、活動の場としての碧高、先生方が働く場所としての碧高、・・・。

中学生のあなたにとって、体育大会はどんな意味を持ちますか?文化祭はどうですか?

碧高生 活動紹介 碧高祭を終えて ～各分団長のことば～



赤誠 | 大橋 玖竜 (知立中)

碧高祭を終えて思うことは、総合優勝をはじめ、色々な賞をとることができてよかったということです。文化部門、体育部門でも賞をとることができ、パネルやステージ、展示、応援で1、2、3年生が一丸となって頑張ってくれたおかげで、優勝することができました。3年生が引っ張っていくのは当然ですが、1、2年生が応援団の子を中心に、それぞれの学年を引っ張ってくれていて、とても頼りになりました。この総合優勝は、団の全員でとることができた賞だと思うので、何より嬉しかったです。団の皆ありがとうございます。



白虎 | 岡田 凱 (一色中)

碧高祭を終えて、今までやってきた事を全て出しきれた達成感と、終わってしまっって淋しい気持ちがあります。応援団長はずっと「優勝する」と言っていて気合いが入りまくりで、練習がとても充実していました。本当に応援優勝できてよかったし、応援団長を優勝させることができてよかったです。この碧高祭は、たくさんの人のおかげで三年間で一番いいものになりました。白虎のみんなありがとう!白虎最高!



青陵 | 榊原 昌亮 (碧南市立南中)

碧高祭では、学んだことがたくさんありました。特に学んだことは、人をまとめて引っ張っていくことは、とても大変だということです。自分の思い通りにはいかず、悩むこともたくさんありました。しかし、周りの仲間の助けもあり、最後までやり抜くことができました。高校最後の碧高祭で、かけがえのない思い出をつくることができ、本当に良かったです。



玄黄 | 賀数 昇太 (新川中)

僕が碧高祭を終えて一番思ったことは、玄黄の分団長をやることができて本当によかったなということです。僕は人の前に立ち、何かのリーダーとして行動することはあまり得意ではありません。分団長を決める直前までどうしようか悩んでいましたが、「悩むくらいならやろう」と思い、やったことが結果的に良い選択になりました。準備期間でも本番でも、たくさん苦労することもありました。しかしそれ以上に、楽しさがありました。碧高祭が終わり、分団のみんなが「玄黄でよかった」と言ってくれることがとても嬉しかったです。こんな僕に玄黄分団長をやらせてくれたみんなに、とても感謝しています。ありがとうございます。